

「2022年度ベトナム国家大学ハノイ校スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学工学部二年 堀田史也

① 学習成果

学習成果として第一に挙げられるのは語学へのモチベーションの向上です。今プログラムでは渡航前に10時間ほどベトナム語事前に学習したり、現地の大学でもベトナム語の授業を受講したりなどしましたが、いくら大学の教室で語学の授業を取っても、それを実際に使われている現場に行かなければ、語学を続けるモチベーションを維持することは難しいです。しかし、今プログラムでは実際にベトナム語が使用されている国(ベトナム)に赴き、現地の学生との交流や店などでの簡単なお金のやり取りを通して、実際に自分が学んでいる言語が生きた言語としてどのように使われているのかを目の当たりにすることができました。この経験により、自分から新しい言語を学んでゆく楽しさを実感し、さらに言語学習に対するモチベーションの向上にもつなげることができたと考えています。今後、英語などをより深く勉強していく際のモチベーションの維持として、現地に実際に行く重要性(留学などを含め)を改めて感じました。

② 海外での経験

プログラム以外の部分で、ベトナム現地でさまざまな経験をすることができました。例えば、授業後に現地の学生と観光地へ出かけ、現地の学生の解説つきで観光名所を見学したり、夜は学生たちとオススメのベトナム料理の店に行き、そこでベトナム人の若者たちが普段食べているものを食べました。このような経験はただ海外旅行にいくだけでは決して味わえない貴重な体験であると思います。

③ プログラム内容

プログラムでは基本的に現地の大学で授業を受けるものと、日本語学科の学生の実際の授業を教室の後ろから聴講するという形式がありました。これらのうち、実際の授業の聴講は非常に興味深いものでした。日本語学科の学生のほとんどはまだ日本に一度も行ったことがない人が多いにもかかわらず、みな熱心に日本語の授業を受けていました。授業の形態は日本の語学の授業とさほど変わりはありませんが、ベトナム人の講師が雑談交じりに話して聞かせる日本についての話は、他者からの日本に対する視点がかなり含まれていると感じ、聞いていてとてもおもしろいと感じました。またベトナム人の学生が日本という国にどの程度の関心があるのかを知ることができたと感じています。

④ 進路への影響

今回のプログラムを通して、将来自分がどのような職業に就きたいかなどを改めて真剣に考えるようになりました。私は以前から海外に高い関心があり、海外旅行には個人的に行ったことがあったのですが、今回のプログラムのように実際に現地へ行き、現地の人と密接な交流をするというような体験は初めてでした。そのため今回の現地の学生との交流を通して、異なる文化圏の人間と関わることはいい意味で刺激的で、新しい価値観の共有につながると感じました。また、異文化の人との交流をすることに対して、前向きになることができました。これらのことにより、私の中で将来、積極的に海外に行ってやろうという野望が芽生えました。そして海外を見据えた将来設計をするうえでは英語が非常に重要であることも同時に実感し、これからも英語を積極的に学んでいこうと思いました。